

授業科目名	保育内容指導法 (健康)	教員名	城戸 佐智子	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	配当年次	2年後期	卒業要件	保育士	必修
科目番号	FOI203				こども音楽療育士	選択
単位数	2単位				小幼コース	選択必修
					幼保コース	必修
科目	教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)(幼稚園)					
施行規則に定める科目区分又は事項等	・保育内容の指導法					
科目	告示別表第1による教科目					
系列	保育の内容・方法の理解					
一般目標	<p>幼稚園教育要領に示されている、領域「健康」のねらいと内容について理解する。幼児期の子どもへの体の発達や心の発達に関して理解する。</p> <p>(1)領域「健康」のねらい及び内容 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>(2)領域「健康」の指導方法と保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1)領域「健康」のねらい及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「健康」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「健康」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5)領域「健康」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 					
授業の概要	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>別表第1の「保育内容演習」の教科目を指導法(健康)・指導法(人間関係)・指導法(環境)に分けたものであることを理解する。養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれの関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことを「健康」の領域で取り扱うことを理解する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。</p>					

ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。
授 業 計 画	<p>第1回：WHO憲章と健康の定義 WHOによる健康の定義と子どもの健康（目標(1)-1）</p> <p>第2回：幼児の健康とはⅠ 幼稚園教育要領における領域健康の考え方（目標(1)-1）</p> <p>第3回：幼児の健康とはⅡ 幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱い（目標(1)-1）</p> <p>第4回：子どもの身体的発育・発達の現状Ⅰ 発達的一般原則、身体発育に対する影響要因（目標(1)-2, (2)-1, (2)-2）</p> <p>第5回：子どもの身体的発育・発達の現状Ⅱ 運動機能・生理機能の発達と影響要因（目標(1)-2, (2)-1, (2)-2）</p> <p>第6回：子どもの精神発達と課題 心理社会的発達と影響要因（目標(1)-2, (2)-1, (2)-2）</p> <p>第7回：子どもの生活習慣獲得と現代の生活 生活習慣の自立と影響要因、生活習慣の自立と子どもへのかかわり（目標(1)-2, (1)-4, (2)-1, (2)-2, (2)-3, (2)-4, (2)-5）</p> <p>第8回：子どもの健康問題と現代の生活 乳幼児に起こりやすい健康問題と影響要因、健康問題への対応（目標(1)-2, (1)-3, (1)-4, (2)-2, (2)-3, (2)-4, (2)-5）</p> <p>第9回：子どもの身体的発育・発達の現状Ⅳ 幼児の運動発達に関して（運動能力の観点から）（目標(1)-2, (2)-1）</p> <p>第10回：子どもの身体的発育・発達の現状Ⅴ 動きの獲得の観点から（目標(1)-2, (2)-1）</p> <p>第11回：子どもの運動と心の育ちⅠ 運動遊びを通しての心の育ち（目標(1)-2, (2)-1）</p> <p>第12回：子どもの運動と心の育ちⅡ 運動遊びの社会性の育ちについて（目標(1)-2, (2)-1）</p> <p>第13回：子どもを取り巻く課題について 運動遊びの重要性に関して（目標(1)-2, (2)-1）</p> <p>第14回：保育指導計画の検討 指導計画に関するグループワーク（目標(1)-1, (1)-2, (1)-3, (2)-2, (2)-3）</p> <p>第15回：救急措置と安全保育Ⅰ 救急法の基本と心肺蘇生法、園内での安全管理（目標(1)-2, (2)-2, (2)-5）</p> <p>期末試験</p>
学 生 対 する 評 価	<p>期末試験60%、レポート提出40%で評価し、60%以上を合格とする。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授 業 外 学 習 に つ い て	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回、講義する内容について事前にテキストのページを指定するので、入念に予習し、不明な点等を明確にしておくこと。</p> <p>事後学習：講義内容に沿ってレポートや小テストを課すので、自己の学習内容について振り返り、返却されたレポート等はファイルしておくこと。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</p>
テ キ ス ト	最新保育講座7『保育内容 健康』河邊貴子 柴崎正行 杉原隆 編著 ミネルヴァ書房 自作の教材を授業において適宜配布する。

<p>参 考 書 ・ 参 考 資 料 等</p>	<p>『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
<p>担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>健康の領域は、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』も『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』とほぼ同一であるので、認定こども園については幼稚園、保育所に準じているものとする。ただし、「子ども・子育て支援新制度」による幼保連携型認定こども園の運営が拡大して、認定こども園独自の健康領域に関わる配慮などが求められるようであれば、授業内容として取り扱っていく。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>金曜日 13:00~15:00 Email: skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p>